平成23年10月20日

各 位


上場会社名　日本電計株式会社
代表者　代表取締役社長 武蔵　信義
(コード番号　9908)
問合せ先責任者　代表取締役専務 佐藤　信介
(TEL　03-3251-5731)


# 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成23年8月12日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

## ● 業績予想の修正について

平成24年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 四半期純利益 |
|---|---|---|---|---|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 前回発表予想(A) | 30,000 | 500 | 400 | 450 |
| 今回修正予想(B) | 30,500 | 710 | 640 | 710 |
| 増減額(B-A) | 500 | 210 | 240 | 260 |
| 増減率(%) | 1.7 | 42.0 | 60.0 | 57.8 |
| (ご参考)前期第2四半期実績(平成23年3月期第2四半期) | 28,024 | 451 | 334 | 261 |

平成24年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|---|---|---|---|---|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 前回発表予想(A) | 66,000 | 1,200 | 1,100 | 850 |
| 今回修正予想(B) | 65,000 | 1,330 | 1,260 | 1,180 |
| 増減額(B-A) | △1,000 | 130 | 160 | 330 |
| 増減率(%) | △1.5 | 10.8 | 14.5 | 38.8 |
| (ご参考)前期実績(平成23年3月期) | 64,805 | 1,199 | 1,129 | 795 |

平成24年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

| | 売上高 | 経常利益 | 四半期純利益 |
|---|---|---|---|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 前回発表予想(A) | 29,000 | 300 | 350 |
| 今回修正予想(B) | 29,060 | 461 | 544 |
| 増減額(B-A) | 60 | 161 | 194 |
| 増減率(%) | 0.2 | 53.7 | 55.4 |
| (ご参考)前期第2四半期実績(平成23年3月期第2四半期) | ― | ― | ― |

平成24年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 |
|---|---|---|---|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 前回発表予想(A) | 64,000 | 900 | 750 |
| 今回修正予想(B) | 63,200 | 1,000 | 810 |
| 増減額(B-A) | △800 | 100 | 60 |
| 増減率(%) | △1.3 | 11.1 | 8.0 |
| (ご参考)前期実績(平成23年3月期) | 62,612 | 876 | 688 |

修正の理由

1．連結業績

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、東日本大震災によるサプライチェーンの寸断や、原発事故に端を発した電力供給不安により企業の生産活動に支障が生ずる厳しい状況で始まりました。また、海外でも、東日本大震災によるサプライチェーンの寸断による部品供給に支障が出て海外での自動車生産にも影響が出ました。また、7月以降は、日本国内では、産業界で電力不足への対応のための変則的な生産体制が実施される他、欧米における債務問題の顕在化に

よる著しい円高の進展もあり、世界的に株価が急落するなど景気の先行きに対する不透明な状況で推移いたしました。
　一方、当社グループが属する電子計測器、電源機器、環境試験機器等の業界におきましては、国内では、電力不足への対応として、太陽光発電、ＬＥＤや蓄電装置等の分野では積極的な研究開発が進められておりますが、主要ユーザーである電機･自動車業界は消費の動向を見極めた慎重な設備投資姿勢が見られました。
　このような状況のもと、当社グループは、国内･海外の幅広い営業拠点網を活用して、環境･エネルギー関連市場を中心に積極的なソリューション営業活動を展開いたしました。東アジアでは、やや景気に翳りが出てきたものの引き続き好調な景気を背景として海外子会社の業績が順調に推移いたしました。
　以上の結果、当第2四半期の連結累計期間の売上高は305億円（前年同四半期比8.8％増）となる見込みであります。損益面では、粗利益率の改善に加え、前々期から取り組んでおります経費削減効果により、営業利益は7億1千万円（前年同四半期比2億5千万円増）となる見込みです。欧州の財政危機を発端として為替相場が急激に円高となったことから、為替差損が想定以上に発生したことで、経常利益は6億4千万円となる見込みです。但し、個別で税効果会計による法人税等の調整をおこなった結果、当期純利益は、7億1千万円となる見込みであります。
　以上の理由から、平成23年8月12日付けの「業績予想の修正に関するお知らせ」で開示いたしました今期の第2四半期累計期間の業績予想を修正いたします。なお、通期につきましては、第2四半期連結累計期間の修正分を踏まえ、引き続き電力不足が懸念されること、欧米における債務問題が危機的な状況となっていること、日本の有力メーカーの生産拠点のひとつであるタイでの大洪水による操業停止等、当社グループを取り巻く経済環境は予断を許さない状況にありますので、通期業績予想も併せて修正するものであります。

２．個別業績
　連結業績予想の修正理由と同様であります。

(注)当業績予想は、現時点において入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は、様々な要因により異なる場合がありますので、ご承知おきください。

以 上